

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第46回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「裏木曾」その十

### 小谷狩②

水を利用しながら川の本流へ木材を運ぶ「小谷狩」の主役は運材担当の労働者である「日雇」です。日雇は伐採を担当する「杣」とは別の職種ですが、時代や地域により両方を兼ねるという人もあったようです。「杣」は単独で行う作業が多く最低限の技術を習得するのにも数年の修業期間が必要だとされますが、「日雇」は集団による作業であり経験が浅くとも一緒に働きました。



大正時代頃の木曾谷での日雇達による小谷狩風景。裏木曾でもこれに近い風景が見られたと思われる。



大正時代初め頃、裏木曾の「日雇」のイメージ（「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より）ここで描かれているのは「看板」と呼ばれる役付きの現場監督達であり法被に役職名が見られる

「日雇」は二十人程で一つの組となり「看板」と呼ばれる現場監督の指揮により、運材装置の設営と解体や、鳶口や鳶竿（長い鳶口）やツルといった道具で木材を引っかけ小刻みに運ぶ運材作業を行いました。「看板」の中でも運材の先頭を指揮する「木鼻役人」と殿で後片付

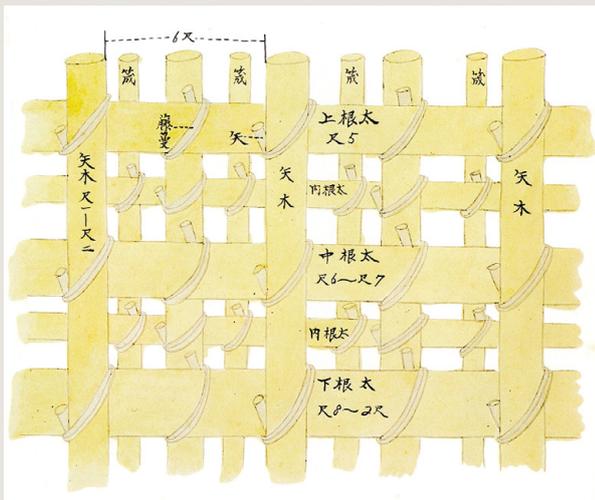


「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より運材を指揮する「看板」のイメージ（大正初期）

けをしていく「木尻役人」は「日雇」の中でも特に技術優秀な者が選抜されたものでした。「日雇」の世界では「看板」になることは経験と技術を持つている証であり名誉なこととされていた一方、責任の伴うものであり、病気で休んだり寒くても焚火にあたる事ができなかったという逸話があります。

なお、「裏木曾」である現在の岐阜県中津川市付知の出身である画家の熊谷守一氏は大正初期頃に付知川の上流域である東股（現在の東濃森林管理署管内・付知裏木曾国有林の辺り）で三年間程「日雇」として働いた経験があり、著書「へたも絵のうち」（昭和四十六年・日本経済新聞社）の中では往時の「日雇」としての経験談が語られています。

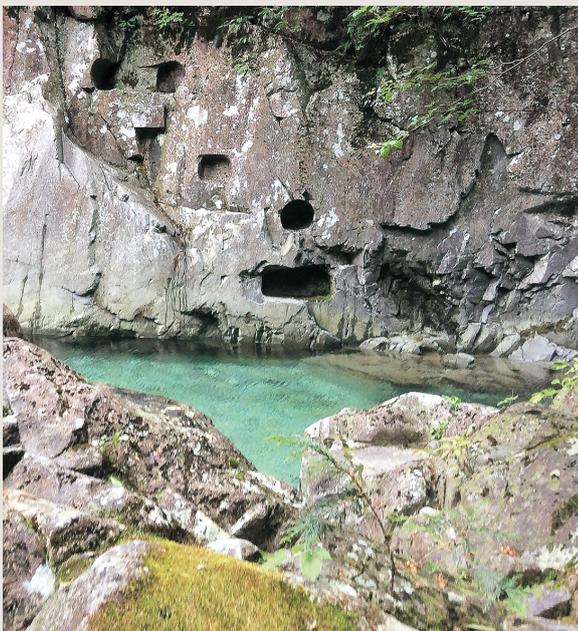
本格的な小谷狩は「大留」と呼ばれる施設から始まります。大留は谷筋で夏・秋の急な出水で木材が下方までバラバラに流出しないように受け止める堅牢な施設であり、谷間で兩岸が岩場である場所が選ばれました。他の運



「大留」の構造図  
 (「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より)



裏木曾の「大留」のイメージ  
 (「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より)



木曾地域に残る「大留」の遺構。直径一尺四寸から二尺ほどの太い丸太を差し込むための岩に空けられた穴が残っている。「木曾悠久の森」スマートフォン写真コンテストより優秀賞「大留めの遺構も秘めし悠久の森」

材施設が一定の区切りで解体されるのに対して、大留は何年も使われるものでした。「山落とし」でも集めた木を集積・整理する場所である「留」が設置されましたが(第四十三回参照)、大留はそれ以上に頑丈に造られ、急な洪水などで木材が一気に流出することを防ぐ防衛ライ儿的な役割を担っていました。ここでは「根太」と呼ばれる長さ一〇メートル程の太い丸太(ヒノキかミズメ)が渡され、川の兩岸の岩に空けられた穴にはめ込まれます。「根太」は上中下の三段に傾斜をつけて置かれ、これに垂直縦方向の「矢」と呼ばれる丸太が藤蔓で頑強に結

び付けられて補強されます。この大留から一本ずつ材木が引き出されて下流へ流されていくことになりましたが、これは概ね十月末から十一月初旬以降の大雨・洪水の少ない季節に入ってから行われるものであったようです。



昭和初期の絵葉書より、当時まだ木曾に残っていたとされる「大留」の跡  
 (現在の木曾森林管理署王滝国有林氷ヶ瀬「根太」と思われる太い丸太が見られる)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
 当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【中信森林管理署

奈良井森林事務所

首席森林官 中島 和美

奈良井森林事務所は、長野県中部に位置する塩尻市奈良井に所在し、ならかわ 楢川地区にある国有林約六、〇二七ろくにんヘクタールを管轄しています。



歴史を感じる町並みの奈良井宿



奈良井ダムからの茶臼山 (2,652m) 中央付近

楢川地区は、旧中山道の中程にある木曾路の北に位置し、関所が置かれていたにえかわ 贄川宿、木曾漆器の生産地である木曾平沢、歴史的な建物の町並みが保存されている奈良井宿があり観光名所となっています。六月には、

木曾漆器祭・奈良井宿場祭が開催され、木曾平沢の大漆器祭と奈良井宿のお茶壺道中などのイベントに多くの観光客が訪れ賑わっています。木曾平沢の漆器販売では、掘り出し物の漆器を見つけることができるかもしれません。

国有林には、中央アルプス木曾駒ヶ岳の北にあるちやうすやま 茶臼山 (二、六五二ろくにんヘクタール、塩尻市で一番高い山) を源とする奈良井川源流があり、下流にある奈良井ダムへと流れ、塩尻市・松本市の水源となっています。また、日本海側へ流れる奈良井川の水の一部を、農業用水として伊那谷へ運ぶ木曾山立会い、水枘の水量検査が行われています。

当事務所では主な業務として、成熟期を迎える人工林ヒノキやカラマツの主伐のほか、間伐による森林整備やコンテナ苗の植栽とその後の下刈、除伐等の保育作業を行っています。こうし

た事業の監督では、森林の多面的機能が効率的に発揮されることとはもとより、安全第一に作業を進めることを考えながら業務を実施しています。

その他に貸付地の確認、境界巡視、計画的な森林整備のための調査などを行い、国有林の適切な管理に努めています。

## ■未来の担い手へのメッセージ

国有林には、地域によって様々な特徴を持つ森林がありますが、それらは長い年月をかけて多くの人の手により守り育てられてきたものです。

この国有林を未来へ繋いでいくため一緒に仕事をしませんか。



事務所前にて



「杉玉(すぎだま)」とは「酒林(さかばやし)」とも言われ、酒蔵の軒先に飾られる縁起ものです。その年の良質な酒造りや商売繁盛を祈念するとともに、地域の平穏を願って、毎年

■活動内容  
 「杉玉(すぎだま)」とは「酒林(さかばやし)」とも言われ、酒蔵の軒先に飾られる縁起ものです。その年の良質な酒造りや商売繁盛を祈念するとともに、地域の平穏を願って、毎年

■自己紹介  
 東京農業大学を卒業し、東京で二十年間過ごしたのち、三十九歳で地元の岐阜県下呂市へUターンしました。



杉玉の高林  
 くまざき そうた  
 熊崎 惣太

「山林を支える日本酒文化」

シリーズ  
 「私の森語り」  
 もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



鮮やかで質の良い杉葉が大量に必要となります。

受注量を少しセーブしたいところですが、杉玉の作り手が全国でも少ない中で注文をいただくので、今はできる限りお受けして、なんとか乗り切っている状況です。とは言っ

十一月〜十二月の新酒の搾りが始まる時期に、新しいものに交換することが習わしとして知られています。新しい杉玉は鮮やかな緑色が特徴で、新酒ができたことを表すサインにもなっています。

■メッセージ  
 先にも書きましたが、今後も安定的に杉玉を届けるためには、若い作り手を増やさなければいけません。しかし年間を通じて雇用できるほどの売り上げがあるわけではないので、

十一月〜十二月の新酒の搾りが始まる時期に、新しいものに交換することが習わしとして知られています。新しい杉玉は鮮やかな緑色が特徴で、新酒ができたことを表すサインにもなっています。



酒蔵に飾られる直径80cm杉玉の重量は約50kg

先にも書きましたが、今後も安定的に杉玉を届けるためには、若い作り手を増やさなければいけません。しかし年間を通じて雇用できるほどの売り上げがあるわけではないので、

■メッセージ  
 先にも書きましたが、今後も安定的に杉玉を届けるためには、若い作り手を増やさなければいけません。しかし年間を通じて雇用できるほどの売り上げがあるわけではないので、

■メッセージ  
 先にも書きましたが、今後も安定的に杉玉を届けるためには、若い作り手を増やさなければいけません。しかし年間を通じて雇用できるほどの売り上げがあるわけではないので、

も、体力仕事なので、いつまでもできるわけではありません。これから先は、作り手を育てていくことにも注力していきたいです。

■連絡先  
 岐阜県下呂市萩原町奥田洞463-1  
 杉玉の高林 TAKABAYASHI



東京で開催された日本酒イベント〈クラフトサケウィーク2024〉にて直径3mの杉玉モニュメントを監修・制作

シリーズ

# 樹林が縞状に枯れる珍しい山

## しまがれやま 八ヶ岳縞枯山希少個体群保護林

### 設定目的

「縞枯」と呼ばれる、樹木が集団で帯状に枯れていく珍しい現象が見られる縞枯山(二、四〇三㍎)に設定されています。この縞枯山のシラビソを主体とし、コマツガ、トウヒ等の混交する天然林個体群の保護・管理をしています。

縞枯現象についての調査研究は多数行われており、発生の原因にはいくつもの要因がありますが、斜面を一定方向に吹き抜ける風(卓越風)による影響が一番の原因とされています。

### 地況・林況

八ヶ岳連峰の北部に位置し、北に横岳、南は茶白山に連なり、火山活動の噴出物で形成された山です。縞枯は二、二〇〇㍎付近から山頂まで現れます。

所在地  
長野県茅野市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

国有林野事業業務研究発表会開催  
中部局二課題が最優秀賞を受賞

【技術普及課】

十一月十四日、林野庁にて国有林野事業業務研究発表会が開催され、全国七か所の森林管理局から職員が一堂に会し、各現場で創意工夫しながら取り組む技術開発や試験研究の成果が発表されました。

当日は、「森林技術部門」九課題、「森林保全部門」六課題、「森林ふれあい・地域連携部門」三課題の計十八課題の発表が行われ、中部局からは、昨年度の中部森林技術交流発表会で優秀賞を受賞した東濃森林管理署の「真砂土地域に適したシカ被害防止対策の試み」（森林保全部門）と、愛知森林管理事務所の「受け流す柵で減災・逆転の発想で早期に復旧」（森林技術部門）の二課題がエントリーしました。

両課題は、各部門で着眼点や普及性などの観点から多数の審査委員による高い評価を受け、その結果、いずれも林野庁長官賞（最優秀賞）を受賞することができました。

また本発表会は、審査委員によ

る審査とは別に、国有林野事業に携わる各局・署の職員が現場業務の目線で投票する「職員が選ぶ業務研究大賞」も設けられており、こちらでも愛知森林管理事務所の課題が選ばれ、ダブル受賞の快挙となりました。



受賞者らによる集合写真

受賞課題の内容は、こちらを参照ください。



中部の森林  
令和6年2月号

デジタル森林紀行  
「白の風景」へご来訪ください

デジタル森林紀行（デジ森）では、風景の色をテーマに写真を掲載しています。冬季の「迫力ある白」や「青空とのコントラストが際立つ白」といった風景の数々をご自宅でお楽しみいただけます。また、デジ森では読者のみなさまからの写真投稿もお待ちしております。

デジ森「白の風景」は  
こちらから↓



デジ森「白の風景」23 能郷白山2

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

♪雪やこんこ、あられやこんこ♪これは雪を歓迎する歌ですが、今季の雪の降り方は歓迎できそうもありません。ここ何年かで耳にするようになったJPCZ(日本海寒気団収束帯)は日本海側を中心に短時間で大量の雪を降らせて交通や生活に影響を及ぼしています。雪解け水は春からの農作業に欠かせないので雪が降らないと困るのですが、ドカ雪と呼ばれるような極端な降り方は遠慮したいものです。

上述の2番の歌詞は「犬は喜び庭駆け回り、猫はコタツで丸くなる」ですが、雪の日に街中で見かける犬は尻尾を下げて仕方なさそう？に歩いています。彼らも寒いのはイヤなのでしょう。猫がコタツで丸くなっているかどうかは確認していません。



「杉玉の高林」HPより

「私の森語り」でご紹介した「杉玉の高林」さんでは、室内に飾る杉玉(写真左:直径30cm)も制作されています。また、杉玉作りを体験できる「すぎぼん」(写真右)のワークショップも行われています。一合柀に杉の葉を挿してハサミで形を整える「すぎぼん」、何だか楽しそうです。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

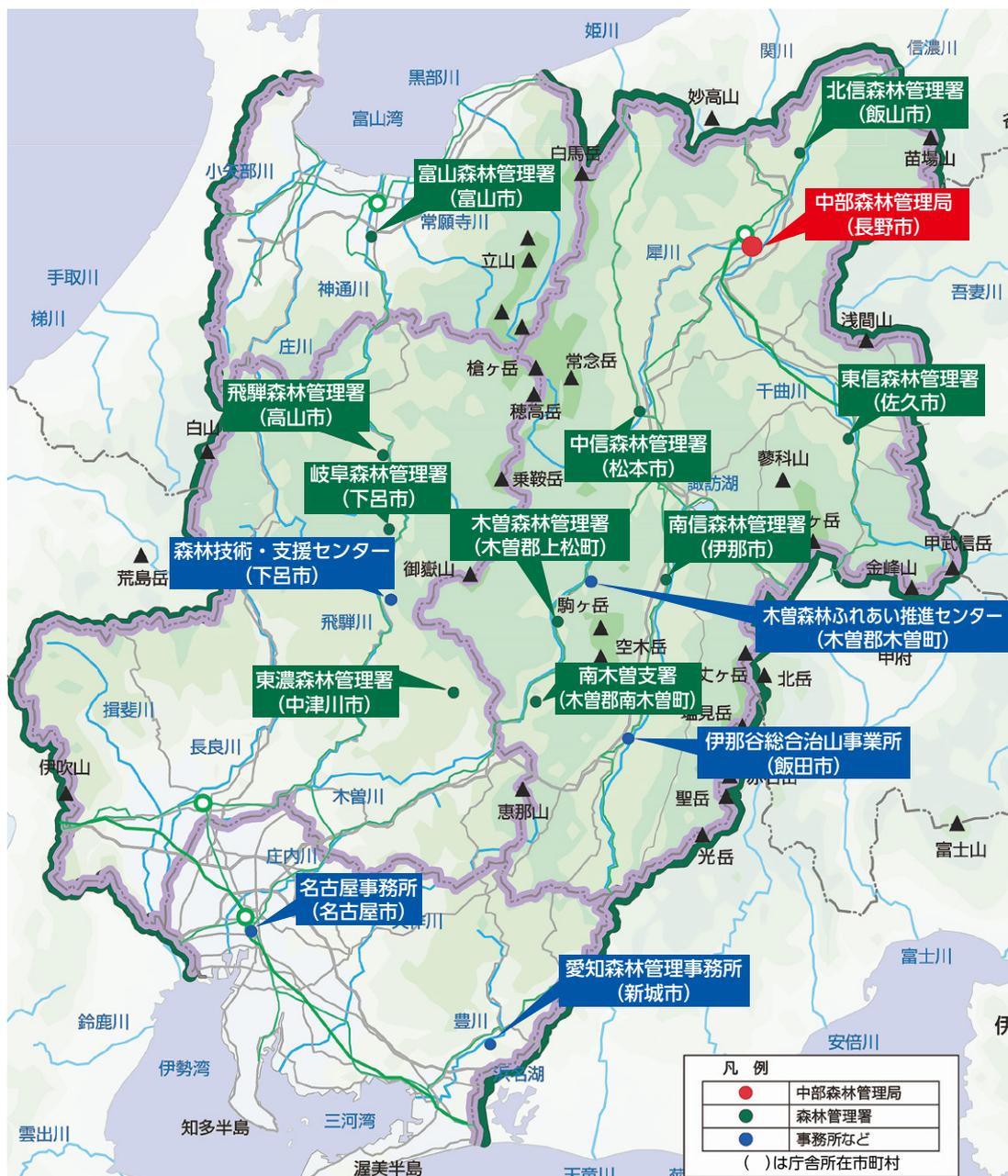


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。